S Y L L A B U S

授 業 計 画

学校法人　志学学園/専門学校

ワールドオプティカルカレッジ

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>特別講義</td><td>担当教員</td><td colspan="2">小笠原 英美 先生
高垣 美絵子 先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
講義</td><td rowspan="2">前期・後期 60 時間
金曜 2限</td><td colspan="3">第一眼鏡科　第二眼鏡科</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">眼鏡店（人と接する仕事）において、教養はとても大切です。
特に、人の悩みの解決を目的としている分野では、お伺いや世間話を通してお客様と信頼関係を築くためにメガネの専門知識ももちろん大切ですが、それは豊かな人間性や教養の上に成り立つものです。
「特別講義」はその考えに則った授業体系です。様々な分野の経験をして、視野を広げるとともに、自己表現の場として、思っている事、伝えたい事を表現することで個々の能力を引き出します。
（授業計画は昨年の内容を記していますが、同じではありません。また順番も違います。）</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">1. 日本文化探索（後楽園散策）
2. 美文字に挑戦（文字を文化とし、美しい文字に挑戦）
3. 川崎医科大学内医療教育施設の見学
4. ヨガ・ピラティス体験
5. 防災訓練
6. 似顔絵スケッチ
7. 校外研修報告会（福井フレーム・レンズ工場見学、海外研修、白井病院研修など）
8. 日本文化探索（姫路城探検）
9. 知っていること発揮度コンテスト
10. 豚眼解剖（興味のある人対象）
11. レンズの専門家による講演会
12. 卒業生による近況報告、交流、質問の応答など
13. 校長による「私の生き方」講演会
14. 卒業研究中間発表会
15. パリミキメガネフェア参加（眼鏡店社員体験）
16. 「プログラミング」を楽しもう
17. しめ縄飾り作製体験
18. 文化をしろう
（ベトナム留学生による母国文化の紹介、アメリカ人講師によるアメリカ文化紹介等）
19. 卒業研究発表会
など、年度により違いがあります。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">出席 50%・レポート 50%</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="4">無し（先生によってはプリントがあります）
提出用レポート用紙</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">研究棟3F（大ホール）</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td></td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td></td></tr>
</table>

講義科目	人間学	担当教員	金光　義弘　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 火曜　3限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	人間の心の働きほど不思議で興味深いものはありません。 みなさんは、自分自身をどのような人間だと思っていますか？ みなさんは、これからの人生をどのように生きていこうと思っていますか？ 「人間学」を勉強すると、これらの問いに対する答えのヒントが得られます。		
授業計画	1. 人間学の入り口　自分の心の動きを知る 2. 見る世界と感じる世界について考える 3. 物の見方と考え方について考える 4. 心の働きを知る 5. 自分史を書いて自分自身を見つめなおす。 6. 自分の将来を意識して人間の一生を考える 7. 人間の記憶について考える 8. 人間の成長について考える 9. 経験による行動変容について考える 10. 自分の性格について考える 11. 自分の能力について考える 12. 社会的心理について考える 13. ストレスと精神的健康について考える 14. 人生の意味について考える		
評価方法	出席を重視　30%　課題レポート　20%　学期末試験　50%		
テキスト	参考図書　講義中に紹介します		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	人間関係の心理学	担当教員	金光　義弘　先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 火曜　3限	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	人間は１人で生きていくことはできません。 だから、豊かな人生を送るには良い人間関係が不可欠です。 良い人間関係とは、相手を尊重し、相手から信頼され、お互いの立場に立って支え合える関係です。 そのためにはコミュニケーション能力を身に付ける必要があります。 「人間関係の心理学」を学び、よりよい社会人になりたいものです。 カタカナが多いですが、易しく実習し学びます。		
授業計画	1.「人間関係の心理学」の入り口 2. 仲間のことを知り、仲間に自分のこと知ってもらう 3. 影響を受けた人と、影響を与えた人 4.「対人関係地図」による自分の位置 5. ソーシャルサポートの互恵性 6. 社会的支援のあり方 　冷たい傍観者にならないために 7. 障害者の理解　ヘレンケラーの物語 8. 障害者との接し方 9. ソーシャル・スキル・トレーニング 10. 適切な自己主張（アサーション） 11. ミーティング・ソリューション 12.「ジョハリの窓」について 13.「心の理論」 をもつということ 14. 人を裁くということ		
評価方法	出席　30%　課題レポート　20%　学期末試験　50%		
テキスト 準備物	参考図書　講義中に紹介します		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	パソコンⅠ（Word／PowerPoint）	担当教員	高垣 美絵子　先生
講義の方法 実習	前期　30 時間 水曜　3限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	「パソコンは苦手…」 そう思っているのはあなただけではありません。 この授業では、学校施設内にあるパソコン（Win10/Office2016）の基本的な機能・操作を中心に学び、身近で便利なツールとして、日常使いできるようになることを目指します。ペースはゆっくりです。 少しずつ苦手意識をなくし、さらりと使いこなしていきましょう。 主に、「Word（ワード）」を使って、「美しく 読みやすい」文書を効率よく作成する能力を身につけると同時に、情報やアイデアを豊かに表現できる「PowerPoint（パワーポイント）」でプレゼンテーションスキルを習得し、「伝える」力も育てます。 ※使用 OS：Windows10, ソフト：Word2016、Power Point2016 ※初～中級者向けの内容ですが、各個人のレベルに合わせて到達目標を設定します。		
授業計画	**Word（ワード）** ・基本機能と特徴 ・文字入力と書式設定 ・画像と図形の編集 ・ヘッダーフッターの編集 ・レイアウトについて ・課題作成（ワードのまとめ） **PowerPoint（パワーポイント）** ・基本機能と特徴 ・表現力のあるプレゼン（文字、背景の編集と応用） ・視覚効果の高いプレゼン（画像編集、動画設定） ・創造性のあるプレゼン（図形の編集と応用） ・プレゼンに必要なこと ・課題作成（パワーポイントのまとめ） **その他**　・PC、インターネット等 知っておくと役立つまめ知識		
評価方法	・平常点 50%（出席率、授業内での課題評価）　・定期試験 50% ※持ち込み可		
テキスト	プリント配付		
講義室	パソコン実習室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	パソコンⅡ（Excel）	担当教員	萩原章子　先生
講義の方法 実習	後期　30 時間 水曜　4限	第一眼鏡科　第二眼鏡科 必修　・　選択	
授業内容	今や、社会人として、「使えて当たり前！」と言われるようになっているExcelです。 高校で学習した人もいるかもしれませんが、初心者を対象にゆっくり学習していきます。 Excel の表計算ソフトとしての機能を知ってもらうことから始めます。 簡単な関数から少しむずかしい関数の使い方や、グラフ作成の習得を目指します。 Excel には、多岐にわたる機能があります。 自分が必要な機能をどのように使うと良いのかを理解し、実行できることを目標としています。 パソコンは、日々の慣れが大事です。週1回ですが、キーボードに触る時間を持ちましょう。		
授業計画	・Excel の基本機能　・四則演算（加算・減算・乗算・除算） ・関数計算（合計・平均・最大値・最小値・順位・四捨五入・・・関数のネスト） ・グラフ作成（棒グラフ・円グラフ・レーダーチャート・積み上げグラフ・・・） ・データ検索（並べ替え・オートフィルタ・・・）　・Excel でできる画像編集　・Word への差込印刷		
評価方法	定期試験、出席率、授業態度により評価をします。 定期試験（持込可）60%　出席率 20%　授業態度（姿勢が悪い・居眠り・教えあいなど）20%		
テキスト 準備物	なし　講義ごとの Excel ブック（本科ハードディスク内）を使用		
講義室	基本講義：パソコン室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>実 践 英 語</td><td>担当教員</td><td>デイヴィッド・フビオ 先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
講義</td><td rowspan="2">通年　60 時間
火曜 2限</td><td colspan="2">第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年</td></tr>
<tr><td colspan="2">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="3">学生に学んでほしいとされる2点
1. 英会話の基礎
ほとんどの学生は高校教育までの文法や単語知識を備えている。
そこを基礎にし、一般的な英会話における基本の基本を口頭で言えるように進めていく。
2. めがね店内での英会話
お店に英会話者が来店した際に使える英語表現で、
視力検査や購入のお手伝いが出来るような基礎的な英語を身に付ける。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">授業は一般的英会話のテキスト Interchange Intro と単語リスト、そして WOC の視力検査の手順にあわせた店内用英会話を交互に組み合わせて進める。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="3">積極性—30%
これは出席率と授業への積極的な姿勢の両方を含む。英会話を身に付けるにあたり、
与えられたタスクに積極的に参加することが不可欠である。
従って本コースにおいて優秀な成績を修めるには、この積極性が最も重要であると考える。
学生に英会話の達人を期待するのではなく、授業で各自が最善を尽くし、集中して学習することを期待している。
積極性に関して減点の対象となるものは、目立つ欠席回数、授業中の携帯電話使用（通話とメール）居眠り、日本語でのおしゃべり等である。

宿 題—20%
小テスト—20%（4回行い、そのうちの低い得点のもの1つは対象外とする）
期末テスト—15%
口頭テスト—15%

学生がどの程度よく会話のパターンを覚えており、なおかつそれを上手く使えたかに焦点を置く。
更に発音やイントネーション、視線を合わせることやジェスチャーなどを使っていかに自然な会話にするかという点にも注意する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="3">Cambridge 出版 インターチェンジ イントロブック A オリジナル練習会話</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="3">第三講義室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td></td><td>実務経験のある教員による授業科目</td><td></td></tr>
</table>

講義科目	英語コミュニケーション	担当教員	デイヴィッド・フビオ 先生
講義の方法 演習	通年　30 時間 火曜 1 限（隔週）	第一眼鏡科1年・2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	学生に学んでほしいとされる2点 1. 基本英語を習います。 発音、単語の読み方、基本の文法、挨拶など 2. 英語でコミュニケーションを楽しく学びます。 授業で学んだ英語を使用し自信と能力を身につけること。緊張を強いられないリラックスした学習環境で外国語を使用する楽しさを体感すること。		
授業計画	授業では様々な英語活動で構成され、その中で反復と間違えを直して学習を進めることで言語能力と語学力を向上させる。 学生の会話量や他のクラスメートとの意思疎通を図る時間を最大限に確保するため、授業内でのアクティビティは主にペア活動または小グループで行われる。 学生は授業で十分に学び知識を身につけるため、心を集中させ、体をしっかり使い、口を動かして積極的に参加することが求められる。		
評価方法	積極性—30％ これは出席率と授業への積極的な姿勢の両方を含む。英会話を身に付けるにあたり、 与えられたタスクに積極的に参加することが不可欠である。 従って本コースにおいて優秀な成績を修めるには、この積極性が最も重要であると考える。 学生に英会話の達人を期待するのではなく、授業で各自が最善を尽くし、集中して学習することを 期待している。 積極性に関して減点の対象となるものは、目立つ欠席回数、授業中の携帯電話使用（通話とメール） 居眠り、日本語でのおしゃべり等である。 宿　題—20％ テスト—50％		
テキスト	オリジナルプリント		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	数学 （マストレーニング）	担当教員	高垣 美絵子　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 月曜 3限前半	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡店であつかう「数」はさまざまです。この授業では、その中でも、実際の接客場面でスピードと正確さを求められる計算について、重点的にトレーニングします。 くり返し練習することによって、瞬間的に頭のなかに数字がひらめくようになることを目指します。 「短時間」で「正確」にできることを最終目標としています。		
授業計画	・数字について　・消費税、割引に関する計算 ・レンズ度数、焦点距離に関する計算 ・スコア表示（SCA）に関する計算　・度数転換に関する計算 ・乱視表（乱視軸予測）に関する計算 ・近用眼鏡（NPD、遠点）に関する計算		
評価方法	平常点 10％（出席率、課題提出）　定期試験 90％（100 点満点中 90 点以上で合格とする）		
テキスト	プリント配付		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	日常生活の漢字	担当教員	小笠原　英美　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 月曜日　3限後半	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	社会人として、日常生活に必要な漢字や用語を勉強（復習）する。 書類や文章を書く時は、最近ではパソコンやスマートフォンを使用することが多いかもしれない。しかし、入力した文字を漢字に変換するにも本来の漢字を知らないと、候補から選ぶことができない。正しい用法・用語を適切に使えるようになることを目標とする。		
授業計画	基本：毎回漢字検定問題（基準 3 級）のプリントを中心に、漢字問題の講義を行う。 ニュース：新聞やニュースを読み（調べ）、漢字（言葉）の使い方を勉強する。 漢字：少し苦手意識が強い学生でも、漢字に親しめるようになる事を目標とする。 文章：読みやすく、相手に意図の伝わる文章を書けるように練習する。		
評価方法	定期試験、平常点で評価する 定期試験（60%）：筆記試験、平常点（40%）：出席点+提出物		
テキスト 準備物	毎回プリントを配付		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	眼鏡学概論	担当教員	西村　淳　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 木曜　1限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	これから眼鏡技術者を目指すみなさんが、広く「眼鏡学」の全体像を把握すること（初めの二週間）と、目の基礎情報を知ることを第一の目的としています。 今後の様々な授業で必要になってくる目の専門知識を理解し、これから行う各授業をスムーズに受けることができるようにします。特に、人間の目（眼）は、物を見るためにとても優れた構造と不思議な特性を持っています。これらの特徴を中心に、理解を深めていきます。		
授業計画 Ⅰ 授業計画 Ⅱ	1. 眼と見える仕組み 2. レンズメータ① 3. マナーⅠ 4. レンズメータ② 5. 生理光学① 6. マナーⅡ 7. レンズメータ③ 8. 生理光学② 9. レンズメータ試験 10. 理解度確認 11. まとめ ※上記内容を約二週間で学ぶ 12～　目と眼の病気について 眼の構造と生理(眼球各部の構造と役割の理解) 眼の病気（白内障、緑内障など）についての基礎知識		
評価方法	期末試験結果(100%)		
テキスト 準備物	テキスト：病気が見える vol.12『眼科』		
講義室	第一講義室		
実務経験	眼鏡店にて 1.5 年	実務経験のある教員による授業科目	○

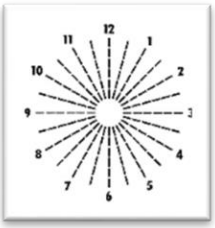
講義科目	眼の生理学	担当教員	可児 一孝 先生 山下 力 先生／林 泰子 先生
講義の方法 講義	後期 30 時間 金曜 3･4限 （隔週）	第一眼鏡科1年 第二眼鏡科1年 必修 ・ 選択	
授業内容	眼球の解剖と生理について、基本的な知識を習得します。 また大脳ならびに全身との関係についても学び、視覚の成立について理解していきます。		
授業計画	スライドやビデオを用いての講義。 1. 概論 眼球組織の構造と名称 眼球運動 2. 眼球後極部の解剖 網膜の局在と視野の対応 3. 視野伝導路 大脳の機能と解剖 自律神経系 4. 閾値の話と心理物理学 眼の自律神経系 5. 眼の循環系 網膜像の信号変換と網膜電位 6. 前眼部、中間透光体の構造 角膜の知覚と神経支配 7. 毛様体の働きと調整 視細胞の働き 光覚と色覚の理解		
評価方法	授業態度、試験などで総合的に評価する。		
テキスト	病気が見えるシリーズ vol.12『眼科』 ※必要に応じてプリントを配付する。		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	眼疾患と CL	担当教員	田淵 昭雄 先生 / 可児 一孝 先生 林 泰子先生 / 高田 俊一 先生
講義の方法 講義	前期 30 時間 金曜 3･4限 （隔週）	第一眼鏡科2年 第二眼鏡科2年 必修 ・ 選択	
授業内容	主要な眼疾患について講義し、ビデオを見て理解を深めます。		
授業計画	1. 概要･視器の解剖と生理･眼底疾患 2. 視覚の発達･機能弱視と器質弱視 3. ロービジョンケア･視覚補助具の活用 4. 眼鏡と CL の光学的特性･角膜のつくりと働き 5. 内斜視と外斜視･先天性斜視と後天斜視 6. CL の基礎知識と CL 装用による眼障害 7. 前眼部疾患･白内障･緑内障とその手術 眼科で使う精密機械の説明、白内障･緑内症･糖尿病網膜症など主要な眼疾患を理解するため、 講義の中でビデオを使います。		
評価方法	授業態度･テストなどで総合的に評価する。		
テキスト	病気が見える vol.12 眼科		
講義室	第二講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>CL 装脱</td><td>担当教員</td><td>萩原章子　先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
講義　実習</td><td rowspan="2">前期　30 時間
金曜　1限</td><td colspan="2">第一眼鏡科　　第二眼鏡科</td></tr>
<tr><td colspan="2">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="3">近年、コンタクトレンズは急速な進歩を遂げ、多種多様なタイプが登場しています。
それに伴い、装用人口も増えています。
コンタクトレンズは、手軽に利用できる視力補正用具である反面、眼（人体）にとっては異物です。
そのため、常に安全かつ清潔に取り扱わなければいけないという課題があります。
本授業では、コンタクトレンズの変遷、眼鏡と比べての利点や欠点を理解すると共に、
コンタクトレンズのケア用品の取り扱い方法なども解説していきます。
特に実習では、自分自身でコンタクトレンズを装脱し、処方までの過程を実体験していただきます。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">1. コンタクトレンズの知っていること、知らないこと
2. コンタクトレンズの歴史
3. コンタクトレンズと眼疾患
4. コンタクトレンズ処方に関する検査機材
5. ハードコンタクトレンズの規格測定実習
6. コンタクトレンズのケア用品、使用方法
7. お客様事例を考える（ロープレ形式）
8. コンタクトレンズ装脱　体験実習×5
 </td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="3">定期試験と定期的な理解度確認及び出席率により評価をします。
定期試験 60%　理解度確認 10%　装脱実習 20%　出席率 10%</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="3">随時、プリントを配付します</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="3">基本講義：セミナーA</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td></td><td>実務経験のある教員による授業科目</td><td></td></tr>
</table>

講義科目	視機能学	担当教員	秀野　良児　先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 火曜　2限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	人間が「物を見る」ために必要な眼の機能を詳しく学びます。見ることの不思議についてきっと深く興味を持っていただけると思います。楽しみにしてください。		
授業計画	1. 授業の「目的」「目標」の理解 &「眼球の理解：眼球図」 2. 視力 3. 視野 4. 光覚と瞳孔 5. 色覚 6. 屈折 7. 調節 8. 眼疾患の理解「白内障とは」「緑内障とは」 「加齢黄斑変性とは」「糖尿病網膜症とは」など		
評価方法	・授業毎に行う「理解度確認」および課題の提出率：20% ・期末試験：80%		
テキスト 準備物	病気が見えるシリーズ vol.12『眼科』　配付プリント		
講義室	セミナーA　&　視機能室		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	視機能学実習	担当教員	秀野　良児　先生
講義の方法 実習	前期　30 時間 月曜　1限	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	メガネを掛けると言うことは、医療に関わることも多く、実際に眼科で様々な検査をしたり、処方箋をもらって眼鏡店に来られたりすることが多くあります。そのようなお客様が来店された時に、眼科でどのような検査を受けたかや、その結果からどのような眼鏡を処方されたかを理解するのは、眼鏡店スタッフにとって大切な知識となります。この授業は、実際に様々な検査の測定体験を行いながら検査の意味などの理解を深めることを目的としています。		
授業計画	1. 授業の「目的」「目標」の理解 授業「視機能学」の復習 オートレフラクトメータ オートケラトレフラクトメータ 2.「様々な視力（測定）」「スポーツビジョン」 3. 校外実習：「様々な視力測定」 4. 細隙灯顕微鏡（スリットランプ） 5. 眼底検査 6. 眼圧測定 7. 角膜内皮細胞 8. 視野測定 9. 検影法　レチノスコープ 10. 検影法　2回目「乱視の測定」 11. 色覚検査 中心フリッカー検査 12. 調節力検査 13. 両眼視検査 14. まとめ		
評価方法	・授業毎に行う「理解度確認」および課題の提出率：20% ・期末試験：80%		
テキスト 準備物	病気が見えるシリーズ vol.12『眼科』　配付プリント		
講義室	セミナーA　&　視機能室		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	屈折調節学Ⅰ	担当教員	西井 智美 先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 火曜 4限 前半	第一眼鏡科 1 年 必修 ・ 選択	
授業内容	「屈折調節学実習」で学ぶ視力屈折測定に必要な知識を学びます。 理論に基づいた測定ができるようになる為に、視力や度数についての「専門用語」と「測定の原理」を理解し、光学的に眼の中の屈折状態がどのようになっているか想像できるようになります。 視力表 二色テスト  乱視表		
授業計画	1～2. 視力について 3～4. 等価球面度数(SE)とは 5～6. 雲霧法とは 7. 二色(R&G)テストの原理 8. 二色(R&G)テストの活用 9. 予備測定〔オートレフのしくみ〕 10. 予備測定〔PD測定の注意点、利き目について〕 11. 乱視と眼の屈折状態の理解(屈折図) 12～13. 乱視表による乱視測定		
評価方法	理解度確認 20% 定期試験 80%		
テキスト 準備物	『視力・屈折測定』　別紙プリント 準備物:定規・赤ボールペン・青ボールペン		
講義室	セミナーA		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	屈折調節学Ⅱ	担当教員	秀野 良児 先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 木曜 3限	第一眼鏡科 1 年 必修 ・ 選択	
授業内容	測定に使用するツールのしくみを理解します。 眼の中の光の屈折状態(近視・乱視の補正について)を図解で学びます。 遠用メガネの度数を決めるための要素を、事例をもとに学びます。		
授業計画	1. 乱視と眼の屈折状態の理解① 2. 乱視と眼の屈折状態の理解② 3. JCC(ｼﾞｬｸｿﾝｸﾛｽｼﾘﾝﾀﾞｰ)の活用と測定原理① 4. JCC(ｼﾞｬｸｿﾝｸﾛｽｼﾘﾝﾀﾞｰ)の活用と測定原理② 5. 完全補正(矯正)度数とは① 6. 完全補正(矯正)度数とは② 7. 光学実験による測定原理の理解 8. 完全補正度数と作製眼鏡度数の関係 9. 作製眼鏡度数決定について 10～12. 作製度数提案事例の研究 13. まとめ		
評価方法	授業毎に行われる理解度確認の成績と課題提出(20%)、期末に行なう筆記試験(80%)		
テキスト 準備物	『視力・屈折測定』　別紙プリント 関数機能付き計算機(1 年時はスマホの計算機能でも OK)〔2 年時購入予定〕		
講義室	セミナーA		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	屈折調節学Ⅲ	担当教員	岡本光平　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 火曜　2限	第一眼鏡科２年 必修　・　選択	
授業内容	屈折調節学Ⅰ・Ⅱでは、基本となる屈折異常とその屈折測定について学びました。次に私たちの眼は、加齢という生理的な変化が生じてきます。近くが見えにくくなる「老視（老眼）」をはじめ、お客様は様々なことが原因で、「見る事」で困って眼鏡店に来られます。そのようなお客様の状況を適切に理解し、正しい方法で確認することにより快適な眼鏡のご提案ができるようになります。 この授業では様々な悩みを持ったお客様の状況を理解し、解決するための手段を学んでいきます。		
授業計画	1. 「老視」と「調節力」と「加入度数」について 2. 加齢と眼の変化（視機能学の復習） 3. 近見加入度数決定の考え方 4. クロスシリンダーを使った近見加入度数測定の原理 5. 近用眼鏡作製度数決定の考え方 6. 近用眼鏡作製度数での遠点の理解 7. コンタクトレンズ装用者の眼鏡作製度数決定 8. 不同視眼の眼鏡作製度数決定 9. 遠近（中近）両用眼鏡の度数決定 10. 近近両用眼鏡の度数決定と遠点 11. 光学実験〔近用眼鏡測定の屈折理解〕		
評価方法	平常授業における記述試験（小テスト）40%、定期試験　60%		
テキスト 準備物	テキスト:『視力・屈折測定』		
講義室	基本講義:セミナーA　　実習:測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて４年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	屈折調節学Ⅰ＆Ⅱ（第二）	担当教員	秀野　良児　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 曜　　限	第二眼鏡科１年 必修　・　選択	
授業内容	「屈折調節学実習」で学ぶ視力屈折測定に必要な知識をわかりやすく楽しく学びます。 視力や度数についての「専門用語」と「測定の原理」を理解度に合わせて解説します。 屈折測定に使用するツールのしくみを理解しましょう。 遠用メガネの度数を決めるための要素を、事例をもとにゆっくり学びましょう。		
授業計画	1～2. 視力について 3～4. 等価球面度数（SE）とは 5～6. 雲霧法とは 7. 二色（R&G）テストについて 8. 測定ツールの操作と理解 9. 乱視と眼の屈折状態の理解（乱視表と屈折図） 10. レフラクターヘッドによる測定（遠用度数測定） 11. 遠用度数測定の実習 12～13. 度数の合わせ方について（事例と例題）		
評価方法	出席率と理解度（10%）、期末に行なう筆記試験（90%）		
テキスト 準備物	『視力・屈折測定学』　　別紙プリント 準備物:PD 測定メジャー、手持ち JCC		
講義室	基本:セミナーA 室　実習:視力測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて９年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	屈折調節学 Ⅲ （第二）	担当教員	秀野 良児 先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 曜　　限	第二眼鏡科 1 年 必修　・　選択	
授業内容	第二眼鏡科 1 年生後期に「屈折調節学実習Ⅲ」と並行し、第一眼鏡科 2 年生との受講内容レベルを合わせる授業。 近用眼鏡が必要なお客様の眼の測定が理論的に理解した状態で応用も含めて実践できるようにするための授業。		
授業計画	1. 遠用度数の決定（近視編） 2. 遠用度数の決定（遠視編） 3. 近用眼鏡が必要なお客様 4. 加入度数測定の原理について 5. 近用作製眼鏡度数の決定について 6.「老視（老眼）」とは 7. 眼位測定（カバーテスト） 8. 累進眼鏡度数の決定について 10. 低視力者の屈折測定 11. コンタクトレンズ装用者の屈折測定 12. 不同視眼の屈折測定 13. 遠用度数測定の実習 14. 眼疾患と屈折異常		
評価方法	出席率と理解度（10%）、期末に行なう筆記試験（90%）		
テキスト 準備物	『視力・屈折測定学』　別紙プリント 準備物：PD 測定メジャー、手持ち JCC、関数電卓		
講義室	基本：セミナーA 室　実習：視力測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	累進屈折力レンズ	担当教員	林 則次 先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 木曜 1限	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	累進屈折力レンズは、目的や用途に合わせて新しいレンズが次々と開発されています。 その最新の情報を取り入れながらレンズの理解を深め、お客様のご要望あわせて、どのレンズが適しているか、より適切なアドバイスができるようにします。また、累進屈折力レンズの度数確認（レンズメータ）や種類（レンズマーク）を読み取る実習も取り入れています。		
授業計画	1. 二焦点レンズと累進屈折力レンズ 2. 累進屈折力レンズの構造と分類 3.「遠近」累進屈折力レンズの仕組みと分類 4.「中近」累進屈折力レンズの仕組みと分類 5.「近近」累進屈折力レンズの仕組みと分類 6. リラックス系レンズについて 7. レンズメータで累進レンズの度数を読み取る① 8. 累進屈折力レンズ装用体験 9.「内面設計」「両面複合」「両面設計」のお勧め 10. 個別設計型累進屈折力レンズについて 11. 老視対策レンズのシリーズ化について 12. レンズメータで累進レンズの度数を読み取る②		
評価方法	主に期末に行う筆記試験と累進レンズのレンズメータ測定試験で評価を行う。 期末筆記試験（70%）、レンズメータ測定試験（20%）、課題提出（10%）		
テキスト 準備物	『累進屈折力レンズ』、 プリント資料配付		
講義室	基本講義：第2講義室　実習：視力測定実習室、加工実習室		
実務経験	眼鏡店にて 13 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	屈折調節学実習Ⅰ	担当教員	西井 智美 先生
講義の方法 実習	前期　60 時間 水曜　2限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡作製技能士の基礎である視力測定、屈折測定（度数合わせ）について学びます。 「屈折調節学Ⅰ」で理論的な内容を学び、「屈折調節学実習Ⅰ」では、測定の流れを測定者目線とお客様目線で体験しながら覚えていきます。「テスト枠」を用いた測定方法は、実際に眼科でも使用されている。将来的に、眼鏡作製技能士合格のためにも、両眼 PD を正しく測定できる、テスト枠で完全補正度数を正しく測定できるようにします。		
授業計画	1. 裸眼視力の測定ができる/現在眼鏡視力の測定ができる 2. 裸眼視力の測定ができる(0.1 未満の視力測定/利き目) 3. 片眼 PD の測定ができる 4. PD 復習+オートレフ測定 5. 受付～オートレフ復習　初期セット度数・雲霧確認 6. 受付～雲霧確認復習　2 色テスト 7. 受付～2 色テスト　復習 8. クロスシリンダー(乱視軸) 9. クロスシリンダー(乱視度数) 10. クロスシリンダー(最初から乱視がセットされていた場合＋復習) 11. 回目の 2 色テスト～完全補正視力の測定 12～14. 受付～完全補正視力の測定		
評価方法	実技試験 100%（PD 測定試験 30%　完全補正度数の測定 70%）		
テキスト 準備物	テキスト:『視力・屈折測定学』　配布プリント 準備物:PD 測定メジャー、手持ち JCC、関数電卓、測定記録用紙(授業内で配布)		
講義室	視力測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

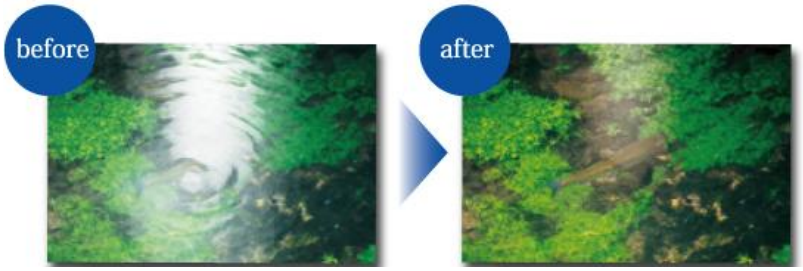
講義科目	屈折調節学実習Ⅱ	担当教員	西井　智美　先生
講義の方法 実習	後期　30 時間 金曜　1限	第一眼鏡科 1 年 必修　・　選択	
授業内容	測定器具を、眼鏡店で使用される「レフラクターヘッド」に変更し、より実践に近い形で学びます。 声掛け等、実際のお客様対応を意識しながらの測定、お客様の要望に沿った「作製眼鏡度数の決定」について学んでいきます。実際のお客様対応を意識した測定、お伺いからお客様に適した作製眼鏡度数の決定ができるようにします。		
授業計画	1～2. 前期の復習　3. レフラクターヘッド 4～5. 初期セット度数～完全補正度数の測定 6. お伺い＋実習　7～9. 受付・お伺い～完全補正度数の測定 10. 作製眼鏡度数の提案(セオリー)　と決定/実習 11～13. 受付・お伺い～作製眼鏡度数の提案と決定　14.模擬試験		
評価方法	出席率 10%　実技試験 90%		
テキスト 準備物	テキスト:『視力・屈折測定学』　配布プリント 準備物:PD 測定メジャー、手持ち JCC、関数電卓、測定記録用紙(授業内で配布)		
講義室	基本講義:視力測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>屈折調節学実習Ⅲ</td><td>担当教員</td><td>岡本 光平　先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
実習</td><td rowspan="2">前期:水曜　1限　 90 時間
後期:月曜　2限／木曜　Ⅰ限</td><td colspan="2">第一眼鏡科 2 年　第二眼鏡科 1 年</td></tr>
<tr><td colspan="2">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="3">1 年の時に、「近視」「遠視」「乱視」といった屈折異常のお客様に合わせる度数測定を勉強してきましたが、年齢が高くなると、遠くが良く見える眼鏡を掛けても、近くが見えにくくなる老視（調節異常）で困っている人がたくさんいます。
この授業は、眼の生理的な加齢変化を理解し、「老視」の人に快適な眼鏡をご提案するスキルを身に付けていきます。また、「老視」以外にも、様々な要因で見え方に困っているお客様一人一人に合わせる技術を修得していきます。授業では、お客様の屈折異常を想定し、お互いにお客様役をシミュレーションしながら測定練習を行っていきます。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">【前期】
１．　遠用眼鏡作製度数の決定
２．　お客様に合わせた測定の効率化
３．　片眼 PD の測定
４．　近用加入度数の測定
５．　近用眼鏡作製度数の決定
６．　近用眼鏡作製度数での遠点の説明
７．　遠近両用眼鏡の提案
８．　老視体験　※進捗状況によっては後期
【後期】
１．　両眼調節バランステスト
２．　視力が上がり難い人の測定
３．　両眼視に関わる測定
４．　中近両用眼鏡の提案
５．　近近両用眼鏡の提案
６．　お客様測定</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="3">定期評価（平常授業における模擬試験　40％、定期試験　60％）
前期および後期の期末毎に定期評価を行い、最終評価は前後期評価の平均とする。</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="3">テキスト ：「屈折調節学実習」秀野良児　※必要に応じてプリント配布
準備物 ： PD 測定メジャー、ジャクソンクロスシリンダー</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="3">視力測定実習室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 4 年</td><td>実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>測 定 実 務</td><td>担当教員</td><td colspan="2">桑嶋 浩己 先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
実習</td><td rowspan="2">前期 木曜 2 限 90 時間
後期木曜2 限／3限</td><td colspan="3">第一眼鏡科3年 第二眼鏡科2年</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修 ・ 選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">卒業後、眼鏡店にてお客様一人ひとりに合わせた測定ができるように、今までの測定実技の総復習から実践応用力と社会人としてのマナーや会話、眼鏡技術の専門家としての配慮や技術を身に付けましょう。
店頭で実際に対応するスタッフが困る事例を集めて、その対処法を学びます。
さらに実習では、調節麻痺剤を使って「老視」の体験を行い、さらに「累進屈折力レンズの装用体験」を行います。また、実際のお客様をお呼びして、屈折測定、レンズ提案などを行います。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">1. 遠用屈折測定の復習
2. 事例研究による作製度数の決定と装用テストによる装用感・違和感などの確認
3. 遠用眼鏡度数決定における配慮
→ お伺い、会話の大切さ（眼疾患の確認 アムスラーチャート クロックチャート）
4. いろいろな視力測定機器への対応 テスト枠での測定
5. 近用レンズ、遠近両用レンズの散瞳による装用体験
6. 近用Add測定復習
7. 近用眼鏡に関するお伺いと記録
8. 遠点・近点・明視域と加入度数
9. 遠近両用眼鏡度数決定実習 （作製度数の決定）
10. スキアースコープの活用
11. WOC学生・スタッフの測定実習
12. 視力の出ないお客様への対応
13. 実際のお客様をお迎えしての測定実習（高齢者・低加入・店舗スタッフなど）
14. 眼科との連携（白内障 術前検査、子供の処方例 眼科紹介について）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">課題に取り組む姿勢、眼鏡技術者として卒業に値するマナー、定期試験の結果で総合的に判断します。
期末試験を 100%として総合的に評価する。</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="4">必要に応じて準備、配付予定</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">視力測定実習室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 37 年</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

講義科目	両眼視機能学Ⅰ	担当教員	秀野　良児　先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 月曜　1限	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	ヒトをはじめ、多くの動物の眼は2つあります。両眼視機能の授業は眼が2つある理由を考えることから始まります。2つの眼を上手に使うと様々なメリットがあります。 メガネは両眼で見ることを補助することもできますが、逆に妨げることもあります。両眼で見る仕組みを理解し、眼の動きをしっかり確認できることが狙いです。		
授業計画	1. 両眼で見ることの体験（実体鏡） 2. 両眼からの情報は脳の中でどのように処理されているか（視覚情報の処理） 3. 両眼で見る仕組み（局在と網膜対応、パヌムの融像感覚圏） 4. 両眼で見る仕組み（同時視、融像、立体視、深径覚） 5. 両眼で見ていないケースとは（異常対応、抑制、複視） 6. 眼の動き（眼球運動）　7. 近くを見るときの眼の動き（調節と輻湊） 8. 斜視（眼位の異常、斜視と斜位）　9. 眼の向きの測定（眼位測定） 10. 眼の向きの測定体験（カバーテスト） 11. 両眼で見ている状態をグラフで表示Ⅰ（グラフ分析） 12. 両眼で見ている状態をグラフで表示Ⅱ（グラフ分析） 13. 左右で度数差があるケース（不同視と両眼視機能）　14. まとめ		
評価方法	各授業の理解度確認＆修正提出率：20%　期末試験：80%		
テキスト	『両眼視機能学』		
講義室	セミナーA　視力測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	両眼視機能学Ⅱ	担当教員	秀野　良児　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 月曜　4限	第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	両眼を使って見ることができているか、また両眼で見る上で負荷が掛かっていないかを判断する確認方法を学びます。また実際に測定し、そのデータからお客様の問題を解決するための対応を考えます。 ご自身の眼について新たな発見があるのも楽しいことです。		
授業計画	1. 両眼視とメガネとの関わり 2. 快適に見ることに関わる測定項目（両眼単一視、調節近点、輻湊近点） 3. 眼の向きおよび向きのズレの調整（眼位・融像幅の測定）　実習Ⅰ 4. 眼の向きおよび向きのズレの調整（眼位・融像幅の測定）　実習Ⅱ 5. 眼の向きおよび向きのズレの調整（眼位・融像幅の測定）　実習Ⅲ 6. 調節と輻湊の関係（AC／A比の測定） 7. 自身の眼をグラフで分析（視機能分析グラフの作成） 8. 視機能グラフをどう見るか（視機能分析グラフの見方） 9. 両眼視とメガネでの対応　実習Ⅰ　10. 両眼視とメガネでの対応　実習Ⅱ 11. 測定ロープレ　実習Ⅰ　12. 測定ロープレ　実習Ⅱ　13. まとめ		
評価方法	各授業の理解度確認＆修正提出率：20%　期末試験：80%		
テキスト	『両眼視機能学』		
講義室	セミナーA　視力測定実習室		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>物理光学</td><td>担当教員</td><td>秀野　良児　先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
講義</td><td rowspan="2">前期　30 時間
火曜 2限</td><td colspan="2">第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年</td></tr>
<tr><td colspan="2">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="3">眼鏡に関する光学は、大別すると物理光学（光とレンズの光学）と生理光学（眼の光学）に分けられます。物理光学では、光の性質や眼鏡レンズの分類と特性、レンズによる結像や屈折力の話を中心に学習
します。光は学べば学ぶほど不思議な存在で奥深いですが、その光とレンズが織りなす面白い世界に
足を踏み入れてみましょう。授業の内容は理論だけでなく、様々な器具を使った実習を行い、虹や
偏光レンズなど身近な光の現象をとらえて、わかりやすく光とレンズの光学を学びます。
 
</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="3">1. 光の本質
2. 光の一般的性質Ⅰ
3. 光の一般的性質Ⅱ
4. プリズムⅠ
5. プリズムⅡ（実習を含む）
6. ディオプターと焦点距離
7. 球面レンズ
8. 円柱レンズ
9. トーリックレンズ
10. 像の作図
11. 結像公式1（バージェンス）
12. 結像公式Ⅱ　（実習を含む）
13. レンズの屈折力Ⅰ（実習を含む）
14. レンズの屈折力Ⅱ
15. 収差Ⅰ（色収差）
16. 収差Ⅱ（ザイデルの5収差）
17. 測光
18. 総復習</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="3">定期試験及び出席率により評価をします。
定期試験 95％　出席率 5％</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="3">『物理光学』</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 9 年</td><td>実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

講義科目	生理光学	担当教員	高垣美絵子 先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 水曜 2限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修 ・ 選択	
授業内容	本校での光学は、大別すると「物理光学」と「生理光学」、「眼鏡光学」に分けられます。 本授業では、「生理光学」(＝眼の光学)について、見える仕組みへの理解を深めながら眼鏡への応用も含めて解説します。 あなたの眼はどんな眼でしょうか？(正視・近視・遠視・・・) 眼はとても精密な光学システムを持っていますが、身近な現象(屈折、調節、視力・・・)からそれらを考え、検証すると意外と楽しい世界が広がっています。 基本は、自らが「学び」、「考え」、「表現する」授業構成を目指します。		
授業計画	1. 概論「物をみる仕組み(眼の構造と役割)」 2. 屈折、調節にかかわる眼の構造 3. 屈折状態「近視」「遠視」の分類 4. 屈折状態「乱視」の分類 5. 屈折異常眼の光学模式図、眼と眼鏡の関係 6. 近視眼・遠視眼の補正 7. 乱視眼の補正 8. 遠点と近点、調節力 9. 屈折力計算尺の理解 10. 明視域、調節域 11. 調節と老視 12. 老視の補正(加入度数) 13. 視力とは、視力の表示法、さまざまな視力 14. 屈折状態の説明と予防 15. 総復習		
評価方法	定期試験により評価する(100%)		
テキスト	テキスト:「生理光学」　理解度確認＆解説用 配付プリント		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	眼鏡光学	担当教員	西村　淳 先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 金曜1限	第一眼鏡科2年・第二眼鏡科1年 必修 ・ 選択	
授業内容	物理光学(光とレンズの光学)で学んだ内容と、生理光学(眼の光学)で学んだ内容を合わせた授業が「眼鏡光学」です。目に光が入ってくるのは、目の前に眼鏡があるときとないときでは変わってきます。 レンズを通して見える像は、レンズ度数によって位置や大きさが異なる、また、両眼バランスや視野の影響があるなど、知ることで謎めいた世界を検証することができ、眼鏡レンズやコンタクトレンズを比較し学ぶことで、お客様が快適に眼鏡を使用できるために必要なことを、自らが体感し、学びを深めていきます。		
授業計画	Ⅰ. 眼鏡レンズのプリズム作用 1. 光の特性(復習) 2. レンズのプリズム作用 3. プレンティスの法則 4. 合成プリズム、ロータリープリズム 5. プリズム処方と偏心量 Ⅱ. 眼鏡レンズの倍率 1. 眼鏡倍率(SM:Spctacle Magnification) 2. 像の拡大と縮小、CLとの比較 Ⅲ. 眼鏡処方における問題点 1. 瞳孔間距離と光学中心間距離 2. 頂点間距離による補正効果 3. 不同視と不等像視 4. 両眼視と眼精疲労 メガネの加工条件、フィッティング条件をもとに考える		
評価方法	定期試験により評価する(100%)		
テキスト 準備物	テキスト:『眼鏡光学』 準備物:関数電卓、クリアファイル		
実務経験	眼鏡店にて 1.5 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡フレームⅠ	担当教員	西井　智美先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 金曜　1限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡フレームは、見た目では伝わらない情報がたくさんあります。授業では、実際の眼鏡に触れながら、その眼鏡の魅力を自分の言葉で伝えられるようにグループワークをしながら学習をすすめていきます。眼鏡フレームの各部名称や素材の特長など基礎知識を学びます。この授業を通して、将来眼鏡フレームの提案で必要な知識の習得、一般的な眼鏡フレームの素材や作り等を的確に判断できるようになります。		
授業計画	1. 眼鏡の楽しみ方、取り扱い入門 2～3. 眼鏡枠の玉形デザイン、JIS用語、構造、各部の名称 4. 復習／眼鏡フレームクイズ 5～8. 眼鏡枠に使用される素材とその特徴 金属素材、樹脂素材、天然素材 9. 眼鏡枠に使用されるコーティング 金張り、めっき、塗装、七宝、艶消し、印刷など 10. 眼鏡の歴史、眼鏡の主な生産地 11. こども用眼鏡の特徴／眼鏡フレームの歴史と最新情報 12. 眼鏡枠の製造方法 13. まとめ		
評価方法	定期試験（80%）、小テスト（20%）		
テキスト	テキスト :『眼鏡フレーム学』 準備物 :クリアポケットファイル		
講義室	教室		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡フレームⅡ	担当教員	西井 智美 先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 火曜　4限	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡フレームⅠで学んだ基礎知識・魅力を復習し、「伝える」ことをメインに学びます。 フレームそれぞれのメリット・デメリットを理解し、眼鏡フレームⅠで学んだ知識の定着と、3 本以上はフレームの特徴・魅力について自信をもって語れることを目指します。		
授業計画	1.　前期授業復習 2～3. 逆転講義/復習 4～5. カードゲーム作製 6. 商品分析 / GD　7. 似合うメガネとは 8~9. ご要望に合わせたフレームマップ作り / GD 10. FABE 分析　11. 提案トーク考案 12～13. 簡易ロールプレイング/フレーム提案		
評価方法	筆記試験 50%　口頭試験　50%		
テキスト	テキスト :『眼鏡フレーム学』 準備物 :クリアポケットファイル		
講義室	教室/店舗実習室		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

<table>
<tr><td>講義科目</td><td colspan="2">眼鏡レンズ</td><td>担当教員</td><td>石津 資文　先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
講義</td><td colspan="2" rowspan="2">通年　60 時間
前期 ： 水曜 1限／後期 ： 月曜 2限</td><td colspan="2">第一眼鏡科 1 年　　第二眼鏡科 1 年</td></tr>
<tr><td colspan="2">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">メガネレンズの素材、種類、特徴について学びます。商品知識や販売例なども紹介し、将来、お客様に正しく説明ができるよう知識を深めていきましょう。できる限り現物を見て、触って、体験し、それをどのようにしたらお客様に分かりやすく伝わるかを考えていきます。
専門的な知識と分かりやすい説明ができるように勉強していきましょう。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="2">☆前期
1.　眼鏡レンズとは
2.　眼鏡レンズの歴史、分類、必要な条件
3～4.　レンズの三要素の特性
5～6.　プラスチック・ガラスレンズの特徴・種類
7～8.　レンズの製造工程と表面処理
9～10.　レンズのカラー別効果と多機能レンズ
11.　見え方に影響するレンズの収差
12.　復習と理解度確認
13.　まとめ</td><td colspan="2">☆後期
1.　遠近両用レンズの基礎
2～4.　遠近両用レンズの種類と特徴
5～9.　累進屈折力レンズの種類と特徴
10.　特殊加工
11.　機能性レンズ、その他のレンズ
12.　復習と理解度確認
13.　まとめ</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">出席率と授業態度（10%）、筆記試験（90%）</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="4">テキスト ：「眼鏡レンズ学」　および配布プリント</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">基本講義：CG 室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 20 年</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>補聴器学</td><td>担当教員</td><td colspan="2">石津 資文　先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
講義</td><td rowspan="2">通年　60 時間
前期 水曜4限／後期 金曜 1 限</td><td colspan="3">第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">超高齢化社会の日本で、これから使用人口が高くなると予想されている補聴器販売をメガネ販売とリンクさせながら分かり易く、怖がらずに販売出来るように学びます。
昨今、眼鏡チェーン店では補聴器を取り扱っている店舗が 90%以上を超えているので、眼鏡と同様に補聴器もしっかり取り扱える知識と技術を身に付け、卒業後、即戦力として活躍できるように学習します。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">【前期】
1～2.『補聴器の概要』:現在の補聴器を取り巻く状況及び販売方法などの解説
3～4.『音の基本知識』:音の性質、3 要素、表記の仕方の解説
5～6.『耳の構造と働き』:外耳道～内耳までの各器官の解説
7.『難聴の種類と原因』:伝音性、感音性、混合性難聴の解説
8.『販売方法』:お伺いの内容とその目的。販売の流れの解説
9～12.『聴力測定』:補聴器販売に必要な 3 種類の測定及びオージオグラムの解説
13.『聴力の把握』:難聴の種類と聴力図の確認。補聴器装用耳の選定
【後期】
1.『補聴器の機種選定』:形状と特徴、必要な機能及びデジタルデバイスの解説
2～3.『補聴器調整の手順』:基本調整と微調整、デジタル補聴器のフィッティング実習
4～5.『販売ロールプレイング』:聴力測定の結果説明と試聴
6～7.『補聴器装用効果測定』:装用閾値測定と語音明瞭度測定の解説
8.『アフターフォロー』:納品方法とアフターフォローの解説
9.『補聴器の特性測定』:特性機の使用方法
10～12.『総合演習』:受付問診から聴力測定、機種選択、音量調整をロールプレイング
13.『耳型採取』:目的と安全な採取方法の実習

 </td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">定期試験と出席率及び授業態度により評価をします。
定期試験 90%・出席率 5%・授業態度 5%の比率で総合的に評価をします。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="4">『よくわかる補聴器選び 2024 年度版』、作成資料</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">セミナーB 室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 20 年</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>マテリアル加工実習</td><td>担当教員</td><td colspan="2">柚木　愛 先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
実習</td><td rowspan="2">通年　180 時間
金曜3・4限　隔週</td><td colspan="3">第一眼鏡科1、2、3年</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">「自分の描いたデザインを作品として創造できるようになる」を目的に、眼鏡に使用される素材を使用してモノづくりを楽しく学んでいきます。工具や素材の扱い方を正しく知れば、眼鏡修理等にも役立ちます。
作品の進捗状態に合わせて各自で目標を設定し、一人ひとりのステップアップを後押しする指導を行います。
基本的な工具の取り扱いや加工方法を身に着けた後は、実際に装用できる眼鏡フレームをハンドメイドで作製します。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">1. 生地の特性・工具の取り扱い方法を説明
作業に必要な道具の取り扱い方法について、制作課題を通して体験してもらう。
2. 小物の作成
小物作製を通して、いかに効率よく美しく素材を加工していくかを学びながら作品を完成させる。
3. 眼鏡フレームデザイン企画
デザイン画、生地選定
4. ハンドメイドフレーム作製
授業ごとにスケジュールと目標を設定し、完成を目指す。
5. 完成後の振り返り
今回の作成についての反省点のディスカッションを行う。
 </td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">作品評価（70%）、授業の取組み（30%）</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">3F　調整室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 8 年</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

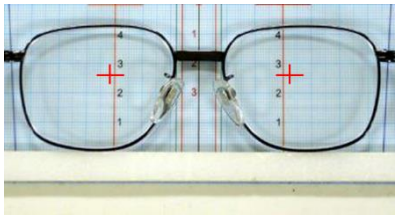
<table>
<tr><td>講義科目</td><td>眼鏡加工実習Ⅰ</td><td>担当教員</td><td colspan="2">西村　淳 先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
実習</td><td rowspan="2">通年　60 時間
前期 月曜1限／後期 月曜1限</td><td colspan="3">第一眼鏡科1年</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">眼鏡加工に必要なことは、①正確につくる、②美しくつくるです。そのためには、お客様の作製データをしっかりと読み取り、加工機に正確に入力する基礎知識、フレームに合わせた加工方法を選択する実践応用力、美しく作るための技術力が求められます。
この授業では、レンズ加工に必要な情報を理解し、メガネ作製の楽しさと美しく出来上がった達成感、満足感を得ながら、店頭で単焦点眼鏡の加工ができるレベルを目指します。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">（前　期）　フルリム（メタル・プラスチック）
1. 眼鏡フレームの名称確認とドライバー・ピンセットの使用方法の確認
2. 眼鏡処方の理解とレンズメータを用いた度数測定と光学中心の印点
3. 加工の流れの確認と準備物、各加工機の説明
4. 単焦点眼鏡の加工：カルテへの記入
レンズ印点、吸着、フレームトレース、加工(1.6(-)球面+オーバル)
5. 単焦点眼鏡の加工：手摺りによるサイズ調整と歪計での確認、面取り加工と枠入れ。
出来上がり眼鏡の評価
6～9. 単焦点眼鏡の加工と出来上がり眼鏡の評価と再作製：加工(1.6(-・+)乱視+オーバル)
10～15. 単焦点眼鏡の加工と出来上がり眼鏡の評価と再作製：加工(1.6(-・+)乱視+スクエア)
（後　期）　フルリム（メタル・プラスチック）、ナイロール
1. 単焦点眼鏡の加工と出来上がり眼鏡の評価：加工(1.6(-・+)乱視+スクエア)
2～5. 単焦点眼鏡の加工と出来上がり眼鏡の評価と再作製：加工(1.6(-・+)乱視+プラスチックフレーム)
6～9. 単焦点眼鏡の加工と出来上がり眼鏡の評価と再作製：加工(1.6(-・+)乱視+ナイロールフレーム)
10～15. 単焦点眼鏡のアイポイントからの加工と出来上がり眼鏡の評価：加工(1.6(-・+)乱視+スクエア)</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">定期試験（95%）、出席率・課題提出（5%）を総合的に評価</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="4">テキスト：『加工調製学』　必要に応じて資料配付
準備物：黒のボールペン</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">加工室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 1.5 年</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

講義科目	眼鏡加工実習Ⅱ	担当教員	岡本光平　先生
講義の方法 実習	通年　60 時間 前期：木曜　2限／後期：金曜　3限	第一眼鏡科 2 年　第二眼鏡科 1 年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡加工実習Ⅰで学んだ加工技術に加えて、フィッティング条件に合わせた光学精度、装用感、美観に優れたさまざまな眼鏡加工技術の習得を目指します。理論と実技を学びながら、後輩たちに説明できるように講義者側の視点でも理解度を深めていきます。 授業履修後は、店舗におけるほとんどの眼鏡加工に対応できるようになります。		
授業計画	習得する加工技術・理論 1. 加工レイアウトによる光学条件の理解 2. 近用眼鏡の作製方法 3. プリズム眼鏡の作製方法 4. 二焦点眼鏡の作製方法 5. 遠近両用眼鏡の作製方法 6. ナイロールフレームにおける型板変更 7. ガラスレンズの加工 8. 枠替え加工の作製方法 9. 二組以上の複数本加工 10.機器メンテナンス		
評価方法	前期および後期の定期試験 100％ 前期評価は前期定期試験評価、後期評価は前期および後期の定期試験評価の平均とする。		
テキスト 準備物	テキスト：「加工調製学」西村淳 準備物　：関数電卓		
講義室	加工実習室		
実務経験	眼鏡店にて 4 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡加工実習Ⅲ	担当教員	西村　淳 先生
講義の方法 実習	通年　60 時間 前期　月曜2限／後期　月曜2限	第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	パターンレス加工機を使用し、多種多様なフレームを用いてフィッティング条件に合わせた光学精度、装用感、美観に優れた眼鏡加工技術の修得を目指します。　また、メガネ販売時にメガネの出来上がりが予測出来る様に、創造性を高める内容も取り入れ、考え実践し検討する授業にする。		
授業計画	（前　期） 1～2. メガネ作製の総復習 3～6. ツーポイントの加工 7～9. スピーディな加工 10～11. 条件つき眼鏡の加工① 12～13. 条件つき眼鏡の加工② （後　期） 1～3. SS 級実技試験対策 4～10. 多様なメガネの加工 11～12. スピーディな加工 13. 完璧な光学精度のメガネ加工	（実　習） フルリム・プラスチック・ナイロール ツーポイント 効率アップを考えたメガネ作製。90 分で3～4本。 累進屈折力レンズ、二重焦点レンズ、ガラスレンズ カラーレンズ、枠替え加工など （実　習） 指示書による手摺りで枠入れ課題 メタル・プラスチック・ナイロール・ツーポイント ﾌﾟﾘｽﾞﾑ（斜乱視、合成、多焦点）、ﾌｧｾｯﾄ加工、はね上げ加工など 効率アップを考えたメガネ作製。90 分で3～4本。 3年間の集大成：光学精度ズレのないメガネを作る	
評価方法	実技試験（100％）		
テキスト	『加工調製学』		
講義室	加工実習室		
実務経験	眼鏡店にて 1.5 年	実務経験のある教員による授業科目	○

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>眼鏡調整装用Ⅰ</td><td>担当教員</td><td colspan="2">石津 資文　先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
実習</td><td rowspan="2">通年　60 時間
前期:月曜　3限／後期:水曜　1限</td><td colspan="3">第一眼鏡科 1 年</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修　・　選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">メガネにとってフィッティング（調整装用）は見え方、掛け心地、見た目にかかわる重要な作業です。
メガネの効果をより発揮するためにはフィッティングはとても重要になります。
この授業では、フィッティングの重要性を知ってもらい、工具の使い方とフィッティングの基本を学んでいきます。
前期は工具の使用方法や眼鏡フレームの基本的な調整方法を学び、快適なフィッティングが行えるようにします。後期は、マネキンを使用して、眼鏡フレームを用途に合わせた調整を行う技術を身に付け、人の顔に対して合わせる基礎作りをしていきます。
ぜひ、メガネの奥の深さとフィッティングの楽しさを感じてください。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">（前期）
1～2　ドライバーの使い方と分解組立
3～5　工具の使い方と手の使い方
6～8　基本調整の作業手順とポイント
9～12　基本調整の実技練習
13~　総合演習

（後期）
1　調整装用学理論の概要
2～4　受注時フィッティングの作業手順とポイント
5～8　受注時フィッティングの実技練習（女性用マネキンとメタルフレーム）
9～11　いろいろなフレームを受注時フィッティング（女性用マネキンとナイロールフレーム、プラスチックフレーム）
12~　総合演習</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">実技試験（60%）と筆記試験（40%）を基本として評価をします。
（出席・授業への取り組み姿勢などで加点、減点があります。）</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="4">テキスト ：「眼鏡調整学」中川富治　および配布のサブテキスト
準備物 ： PD 測定メジャー</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">基本講義:調整実習室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 20 年</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

講義科目	眼鏡調整装用Ⅱ	担当教員	石津 資文　先生
講義の方法 実習	通年　60 時間 前期 木曜4限／後期 水曜3限	第一眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	前期は合わせる応用編として、男性マネキンを使用し、顔の形が左右対称ではない場合の調整を学んでいきます。 後期は実践編として、学生同士がペアになり、お互いの顔にフィッティングする技術と会話術を段階的に無理なく学習・修得します。年間を通して、左右非対称で様々な特徴のある人の顔にきちんと合わせることができるようにします。		
授業計画	（前期） 1～2. 1年生の復習で女性マネキンへのフィッティング実習（メタル・遠用＆近用） 3～6. メタルフレームを使用し、男性マネキンへのフィッティング実習（メタル・遠用＆近用） 7～10. 溝堀フレームを使用し、男性マネキンへのフィッティング実習（溝堀フレーム・遠用＆近用） 11～12. フチなしフレームを使用し、 男性マネキンへのフィッティング実習 （後期） 1～4. 眼鏡をお互いの顔に合わす交代実習（メタルフレーム・遠用＆近用、EP測定、声掛け、マナー） 5～8. 眼鏡をお互いの顔に合わす交代実習（溝堀りフレーム・遠用＆近用、EP測定、声掛け、マナー） 9～10. 眼鏡をお互いの顔に合わす交代実習（フチなしフレーム・遠用、EP測定、会話、マナー） 11～12. 眼鏡調整装用学講義 13～14. 交代実習（プラスチックフレームなど、様々なフレーム、会話、マナー、マーキング） 		
評価方法	定期試験と出席率及び授業態度により評価をします。 定期試験 90％・出席率 10％の比率で総合的に評価をします。		
テキスト 準備物	テキスト:『眼鏡調整学』 中川富治 準備物：PD 測定メジャー		
講義室	実習：調整実習室		
取得資格関連	前期試験時にSS級実技試験あり		
実務経験	眼鏡店にて20年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡調整装用Ⅰ・Ⅱ	担当教員	石津　資文　先生
講義の方法 実習	通年　90 時間 前期　／　後期	第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	メガネ使用者にとって、フィッティング（調整装用）は視力測定と同じくらいに大切なことです。前期は工具の使用方法や眼鏡フレームの基本的な調整方法を学び、その後、女性用マネキン使用して、眼鏡フレームを用途に合わせた調整を行う技術を身に付けます。後期は、男性用マネキンを使用して、人の顔に対して適切で快適なフィッティングが行える基礎を身に付けます。マネキンに合わせる技術が向上すると様々な発見があり、人の顔に合わせる事が容易に感じ調整の楽しさが感じられるようになります。		
授業計画	（前期） 1～2.　ドライバーの使い方。メタルフレームの分解・組み立て。ヤットコの使い方 3～4.　ナイロールフレームの分解・組み立て。ダブルヤットコの使い方（ナイロール） 5～6.　ツーポイントフレームの分解・組立て。ダブルヤットコの使い方 7～8.　歪んだメタルフレームの型直し。女性用マネキンで実習（メタル） 9～10.　歪んだナイロールフレームの型直し。女性用マネキンで実習（ナイロール） 11～12.　歪んだツーポイントフレームの型直し。女性用マネキンで実習（ツーポイント） 13.　総合（メタルフレームを用いて、遠用と近用の違いを理解しつつマネキンで実習） （後期） 1～2.　調整の基礎知識の確認。女性用マネキンで実習（メタル） 3～4.　男性マネキンを使用しての調整の基礎知識の確認。 5～8.　メタルフレーム及びナイロールフレームを用いて、男性マネキンで実習 9～.　メタルフレーム及びナイロールフレームを用いて、お互いの顔に合わす実習		
評価方法	実技試験（50%）と筆記試験（40%）・出席率 10%の比率で総合的に評価する		
テキスト	『眼鏡調整学』　必要時にプリント配付		
実務経験	眼鏡店にて 20 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡調整装用Ⅲ	担当教員	西村　淳　先生
講義の方法 実習	通年　90 時間 前期 水3限／後期 月4限	第一眼鏡科3年 必修　・　選択	
授業内容	1年間で、より実践的なフィッティングが出来るようにするため、接客（会話）をしながら精度の高いフィッティング技術を身につけていきます。 前期は、お客様に単焦点及び遠近両用眼鏡販売におけるフレームを、お顔に合わせするための実習をロープレ主体で行い、技術やマナー、会話力の向上を目指します。 後期は、お客様に中近両用、近々両用、二重焦点眼鏡や特殊フレームをお合わせするための実習をロープレ主体で行います。 また、販売したレンズの遠点・近点・明視域を計算で求めることによって、お客様に見える範囲を説明できるようにし、卒業後お客様に信頼していただける技術力を目指します。		
授業計画	（前期） 1～2. 3～13. 単焦点眼鏡（遠用・近用眼鏡）の納品時フィッティングとアイポイントの測定、カルテ記入 14～　多焦点眼鏡（遠近両用）の納品時フィッティング （後期） 1～ .　多焦点眼鏡（中近両用、近々両用）の納品時フィッティングとレンズシールで見え方説明 （特殊フレーム・特殊眼鏡のフィッティング）		
評価方法	定期試験 90%・出席率 10%の比率で総合的に評価する		
テキスト 準備物	テキスト:『眼鏡調整学』　必要に応じて資料配付		
講義室	実務演習室		
実務経験	眼鏡店にて 1.5 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡修理	担当教員	石津 資文　先生
講義の方法 演習	後期　30 時間 曜　限	第一眼鏡科 3 年　第二眼鏡科 2 年 必修　・　選択	
授業内容	多くの眼鏡は使用者にとって必要不可欠なものです。そのメガネが壊れた、型崩れして違和感があるなど、生活に支障をきたすことがあります。また、新しい眼鏡でも場合によっては最適な状態に 『改良』することも必要です。 この講義ではよくある修理事例の紹介や、型直し・修理・改良など、基本的なフレーム加工の紹介 と実践を行います。いろいろな眼鏡修理を体験することで、どうやって使用できる状態にするか考える発想力を磨く授業です。		
授業計画	1. 修理事例の紹介 2. ねじ抜きとタップ切り 3. ばね丁番修理について 4. プラスチックフレームの丁番修理 5. プラスチックフレームのパッド加工 6. 天然素材のメンテナンスと修理 7. メタルフレーム（合金）のろう付け 8. メタルフレーム（チタン）のろう付け		
評価方法	出席率・取組姿勢（20%）筆記試験（40%）・実技課題（20%×2）を総合的に評価。		
テキスト 準備物	テキスト ： 配布プリント 準備物 ： 講義内容によって服装の指示があります。		
講義室	基本講義：調整実習室		
実務経験	眼鏡店にて 20 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	技術実務	担当教員	柚木　愛　先生
講義の方法 演習	通年　90 時間 前期　火曜　1限　隔週／後期　火曜 1 限　隔週	第一眼鏡科 1 年　第一眼鏡科 2 年 必須　・　選択	
授業内容	全国のお客様が不要になった眼鏡を、スリランカの方に使用してもらえるよう心を込めてメンテナンスします。使用された眼鏡の型直しやレンズ度数の確認を行い、また、色々な眼鏡の状態や素材に 触れることで、技術と知識の幅を広げていきます。 また、1，2 年生合同で行いますので、学年間の交流から 1 年生は質問しやすい関係を、2 年生は 知識技術の見直しをできる環境を作っていきましょう。		
授業計画	毎時間、5本程度の眼鏡調整及びクリーニングを通して、下記の知識と技術を高めます。 ・ 眼鏡の品質の見極め ・ フレームの型直し（左右対称の基本調整、工具の使い方など） ・ フレームの素材、構造などの確認 ・ フレームの刻印表示の理解　サイズ・メーカー ・ レンズのコーティング、劣化度合いの確認 ・ レンズメータの度数読み取り ＜メンテナンスメガネの種類＞ 1年（Ⅰ）： 単焦点レンズ　メタル・セル・ナイロール 2年（Ⅱ）： 多焦点レンズ　メタル・セル・ナイロール		
評価方法	出席、授業取り組み姿勢（50%）、筆記及び実技試験（50%）にて評価		
テキスト 準備物	テキスト ：「眼鏡調整学」中川富治 準備物 ： PD 測定メジャー		
講義室	基本講義：調整実習室		
実務経験	眼鏡店にて 9 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	オリジナルフレーム作製	担当教員	岡本光平　先生
講義の方法 実習	後期　30 時間 金曜日	第一眼鏡科２年　　第二眼鏡科１年 必修　・　選択	
授業内容	アセテート製フレームは、ほとんど手作業で製造することができる。 アセテート製プラスチックフレームの製造方法や構造を手作業による実習を通して学び、知識と技術を深めていく。デザイン画は PC によるドローソフト(または2D CAD)を活用して操作方法を習得する。手作業によるプラスチックフレームの作成 手作業でも実際に装用できる眼鏡が作製できることを体験し、販売されている眼鏡フレームの品質を認識してもらう。 基礎デザイン学、色彩学で培った感性をもとに、アセテート製プラスチックフレームを自身でデザインすることで「夢」のある創造性の発揮につなげます。		
授業計画	1. オリエンテーション（作成の流れ、工具の紹介） 2. デザイン画作成（下書き） 3. PC を用いた図面作成 4. 切削（糸のこぎり） 5. 表面加工（ヤスリ、バフ） 6. 丁番、パッド取り付け 7. 組み上げ		
評価方法	出席、取組姿勢 60%、作品評価 40% 完成したフレームは卒業式典に展示します。		
テキスト/準備物	テキスト　:プリント配布		
講義室	デザイン講義:パソコン室　／　実習講義:調整実習室		
実務経験	眼鏡店にて４年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	基礎デザイン学	担当教員	河本　恵美　先生
講義の方法 演習	前期　30 時間 木曜　2限	第一眼鏡科1年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	本授業では、全てのデザインの出発点となる「平面デザイン」について学ぶ。 具体的には「形」「色」「素材」の各造形要素の特徴を理解しながら、毎回与えられたテーマ・条件に沿って「作品」を制作し、様々なビジュアル（視覚的）表現方法を身につけていく。 受講生には、作品制作を通じて「ビジュアル表現の多様性や、与えられたテーマや条件の中で創意工夫をしていくことの難しさや楽しさ」を体感してほしい。		
授業計画	1. オリエンテーション・　自己紹介のための作品制作 2. 点の構成・線の構成 3. 点の構成・線の構成 4. 面の構成 5. スタンピングによる面の構成 6. 喜・怒・哀・楽の表現 7. コラージュによる表現 8. 自然形態と人工形態 9. 自然形態と人工形態 10. 文字のデザイン表現 11. 音の表現 12. 数字のデザイン 13. カレンダー制作 14.　〃 15.　〃		
準備物	のり、 はさみ、 定規、 カッター等		
評価方法	演習作品、授業態度等を総合的に評価します。		
テキスト			
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	コンセプトメイクと創作メガネ	担当教員	橋本　洋平　先生
講義の方法 実習	前期　30 時間 火曜 3・4限（隔週）	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	デザインコンセプトの確立・デザインアプローチ実習 マーケットを意識して、ショップ計画から眼鏡デザインまで一貫したアイデアを企画する		
授業計画	講義と実習 1.　自己紹介・シラバスの説明・コンセプト・テーマ・トレンドについて マインドマップ・クリエイティブダイアリー 2. コンセプト・ビジュアルの作成　テーマの説明 ファイリングについて・ブランドサーチ 3. 商品構成・ターゲット・店舗立地・テーマビジュアル・カラーガムの作成・リサーチ 4. 方眼デッサン・デザインアプローチ 5. デザイン・デッサン 6. 販売アイデアショップ・内装＆レイアウト 7. ポートフォリオ仕上げ・プレゼンテーション		
評価方法			
テキスト			
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	色彩学	担当教員	河本　恵美　先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 木曜　2限	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	日常生活において、色彩は人間の心理に色々な影響を及ぼしている。 メガネにおいても、その美的側面を構成する重要な要素である。 講義では、色彩の物理現象や視覚効果、心理効果等の基本的な知識を修得した上で、検定合格を目指し、又、実際に効果的に色を使う事ができる技術を身につける事を目標とする。		
授業計画	1. 色の本質　5. 表色系Ⅰ　9. 照明　13. 配色調和 2. 色の三属性　6. 表色系Ⅱ　10. トーン　14. 配色の秩序 3. 12色相環　7. 色名　11. 色の見え　15. 色の感情表現 4. 色立体　8. 混色　12. 色の対比・同化　16. インテリア・ファション・環境 ※単元ごとの演習を計画しています。		
評価方法	期末試験、演習作品、授業態度等を総合的に評価します。		
テキスト	「カラーコーディネーター入門」 監修：(財)日本色彩研究所　著者：大井義雄・川崎秀昭 参考図書：「色彩検定　対策テキスト3級編」 A・T・F 文部科学省認定　監修：（社）全国服飾教育者連合会（A・T・F）		
取得資格関連	AFT色彩検定「ファッションコーディネート色彩能力検定」		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	眼 鏡 美 学	担当教員	柚木　愛　先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 月曜　3限	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	美学とは、それぞれが持っている「美しい」と感じるものについての哲学です。とても幅広く奥深い分野です。 「眼鏡美学」とは、メガネとメガネをかける人の調和の美学です。美学の基礎（メガネに関わる美学の知識）を学び、それらをベースに「似合うメガネ」の理論を学びます。さらに個性の分析（顔型や体形、パーソナルカラー等）を学び、お客様へメガネの提案ができるようにしていきます。		
授業計画	1~3. 眼鏡における美、美の変遷 4. デザインの歴史 5~6.美的標準と個性の分析（実習含む） 7. レンズカラー（アリアーテトレス）のしくみと販売法 8～9. メガネデザインとカラー講義と実習 10～13.イメージとメガネ（イメージスケール） 14.似合う眼鏡の提案（まとめ）		
評価方法	出席、授業に対する取り組み姿勢（10%）、期末試験（90%）		
テキスト	『眼鏡美学』　その他プリント配付		
講義室	CG 実習室		
実務経験	眼鏡店にて 8 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡美学　フレームブランド	担当教員	柚木　愛　先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 月曜　3･4限（隔週）	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	店舗で取り扱うメガネフレームの大半が「ブランド品」です。販売するためにはその「ブランド」の魅力やコンセプトを説明する必要があります。ブランドのルーツやデザイナーの特徴などの知識が販売力を高めます。 この授業では、フランスやイタリアのトップのメゾンであるシャネルやグッチなどをはじめ、現在世界で注目されている人気ブランドをできるだけ多く学ぶことで、ブランドの魅力に触れ、自分の好きな「ブランド」を見つけたり、調べたりすることができるようになります。最終目標は、誰より知識が豊富な「できる販売員」を目指せます。 授業では、ブランドのルーツやデザイナーの特徴や最新の情報を映像中心に紹介していきます。 楽しみながらブランドを学んでいきましょう。		
授業計画	1. ファッションの歴史 2. ブランドとは 3. オートクチュールとブランドの歴史 4～9. ナショナルブランドを紹介 10～12.メガネとブランド 13.まとめ		
評価方法	出席、授業に対する取り組み姿勢（20%）、期末試験（80%）		
テキスト	『眼鏡美学』　その他プリント配付		
講義室	CG 実習室		
実務経験	眼鏡店にて 8 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	ビジネスマナーⅠ	担当教員	岡田 かおり 先生
講義の方法 講義	後期　30 時間 木曜 4限	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	社会人として身に付けておいてほしい最低限のマナーの習得。 あいさつや言葉遣い、話し方、立居振る舞いなどを重点に進めていく。 人前で話すことが苦→楽になるよう発表やロールプレイングとともに進めていきたい。		
授業計画	1.　あいさつとおじぎ 2～3.　学生と社会人の相違点、マナーについて 4～6.　言葉遣いと話し方　発声練習 7～10.　電話応対の基本と演習 11～13.　来客応対と訪問のマナー　基本演習 14.　ビジネスマナーⅠのまとめ 15.　実技試験対策		
評価方法	後期末試験・出席状況・授業態度の総合評価		
テキスト	『社会人準備講座シリーズ①　ワークで学ぶビジネスマナー』 西文社		
講義室	第一講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	ビジネスマナーⅡ	担当教員	岡田 かおり 先生
講義の方法 講義	通年　60 時間 前期 木曜3限／後期 木曜3限	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	社会人として、好感と信頼感を得、自信につなげていくための実践。 検定受験を通じて、社会での役割や知識を習得していく。 就職に向けて必要な知識・スキルの習得と向上		
授業計画	（ 前 期 ） 1～5.　サービス接遇検定 3・2 級 準1級 演習 6～7.　発声練習、アナウンス、スピーチ 8～10.　就職活動の心構え、自己 PR 演習 11～13.　ハガキの書き方、お礼状 14～15.　前期のまとめ、実技試験対策 （ 後 期 ） 1～4.　ビジネス文書 5～7.　来客対応と訪問のマナー応用 8～9.　企業訪問の為の電話アポイントメント 10～11.　おもてなしについて（お茶の接待・実習） 12～13.　和食・洋食のマナー 14.　ビジネスマナーⅡのまとめ 15.　実技試験対策		
評価方法	（前 期） 前期末試験・出席状況・授業態度の総合評価 （後 期） 後期末試験・出席状況・授業態度・検定合格の年間総合評価		
テキスト	（通 年）『サービス接遇検定３級公式（前期テキスト）』 早稲田教育出版 『社会人準備講座シリーズ①　ワークで学ぶビジネスマナー』 西文社		
取得資格関連	サービス接遇検定　3級又は2級　6月受験 サービス接遇検定　準1級　7月又は、12月受験		
講義室	第二講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	マネジメントゲーム	担当教員	岡部　芳彦　先生
講義の方法 演習	後期　30 時間 水曜3・4限（隔週）	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	目まぐるしく変化する経済情勢に対応するため、マネジメントゲームを通じて、経営管理についての実践的なトレーニングを行う。 また、経済に関するトピックスや個別企業のケーススタディーの講義によって、知識を補完し経済人としての1人立ちを目指したい。		
授業計画	第1回：起業：会社設立　第一期経営 第2回：第二期経営 第3回：第三期経営 第4回：経営計画策定、株主総会 第5回：第四期経営 第6回：不況下の経営　第五期経営 第7回：最終期経営		
評価方法	出席および授業への参加状況による総合評価		
テキスト	参考文献：随時紹介　　必要に応じてプリント配付する。		
取得資格関連	ゲームを通じて、会計の基礎についても学ぶ。		
講義室	第二講義室		
実務経験		実務経験のある教員による授業科目	

講義科目	眼鏡店関連法規	担当教員	桑嶋　浩己　先生
講義	後期　30 時間 水曜　1限	第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	法律は人を活かし、人を守るためのルールです。法律を意識せずに生活できるのが楽しくていいですが、時には必要になります。社会の出来事と合わせて知ると、本当におもしろいです。法規は沢山ありますが、その中でも、眼鏡技術者にとって必要と思われる法律を紹介します。「なるほど、そうだったのか」という内容でお伝えします。		
授業計画	1.法治国家日本　法律とは（法律を知る意義） 2.眼鏡士法案　眼鏡作製技能士 3.薬機法（薬事法）、医師法 4.消費者基本法 5.クーリングオフ 6.消費者契約法 7.製造物責任法（PL法） 8.福祉法規 9.個人情報保護法　　10.景品表示法 11・眼鏡公正競争規定　　12.廃棄物処理法		
評価方法	定期試験　80％＋取組姿勢・出席率　20％で評価		
テキスト	「眼鏡関連法規」専門書　オリジナルテキスト及びプリントを配付		
講義室			
実務経験	眼鏡店にて 37 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	経営戦略入門	担当教員	桑嶋 浩己 先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 水曜 2限	第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	実際にお店で働く場合に知っておく必要のある計数の管理について、できるだけ面白く学ぶ。 計数について知れば知るほど、興味が湧き一店員というようよりも経営者感覚になり、気づけば実際のお店の方と同じくらいの知識になっているはず。 戦略的思考は難しく感じるが、ゲーム感覚で楽しみながら身に付けることを目指す。		
授業計画	Ⅰ.店舗に必要な基本的な数値の捉え方を知ることで、今の店の状況や今後についての計画を、数値をもって判断できるようになる ①売上高 ②Zチャート ③利益とは ④P/L, B/S ⑤在庫管理法 ⑥損益分岐点売上高 ⑦限界利益 ⑧80:20 の法則 ⑨ABC分析 ⑩SWOT分析 ⑪ポジショニング 等 Ⅱ.戦略的思考 今置かれている現状からの向上を目指す上での打ち手を様々な角度で検討する。 マネジメントは急発展してきた分野であり、その範囲は広範囲である。		
評価方法	定期試験 80％＋取組姿勢・出席率 20％で評価		
テキスト	お店の数字　山田公一 著　日本実業出版　　プリントを配付		
講義室			
実務経験	眼鏡店にて 37 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	インターンシップ研修	担当教員	西村 淳 先生
講義の方法 実習	夏季休暇中　30 時間	第一眼鏡科2年　第二眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡店で働くイメージをつかむために学校ではなく実店舗で研修を受け入れてもらう。 授業で学んだ内容が、実際に店舗でどのように発揮できるのか、働く社員さんを間近で見ることで自分にできること、今足りないところを発見し、後期からの学校授業に活かすようにする。		
授業計画	・実習店舗の決定 店舗へ事前連絡⇒挨拶（顔合わせ）⇒実習日程の決定 ・店舗で体験 出勤⇒7 日間（1 日 5 時間）の研修 毎日研修レポートを提出⇒社員さんにアドバイスをもらう⇒次の日に活かす⇒総括		
評価方法	出席率 40％　レポート 40％ 研修発表 20％で評価		
テキスト			
講義室	パリミキ店舗		
実務経験	眼鏡店にて 1.5 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	実務演習 Ⅰ	担当教員	西井 智美 先生
講義の方法 演習	後期　60 時間 月曜 2 限	第一眼鏡科1年 必修　・　選択	
授業内容	眼鏡店で働く場合、商品やサービスの「価値」を伝えられるという事は、非常に大切です。 ただ商品を販売するのではなく、「体験」という視点商品価値という考えを学び、提案力向上を目指します。 授業では、少なくとも「商品知識を正しくお客様に伝えられる。」を目標に、グループディスカッションやロールプレイングを通して伝え方・表現力を学びます。		
授業計画	1. オリエンテーション　笑顔　身だしなみ 2. 会話コミュニケーション 3～5. フレーム・レンズ提案(GD) 6. レンズカラー提案 7. お伺い 8. フレーム・レンズ提案(眼鏡が初めてのお客様) 9. フレーム・レンズ提案(現眼鏡をお持ちお客様) 10. フレーム・レンズ提案(厚みが気になるお客様) 11. フレーム・レンズ提案(トレンド) 12～14. お伺い～フレーム・レンズ提案		
評価方法	身だしなみ(4 項目)10%　課題 10%　学期末試験　80%		
テキスト 準備物	準備物:レンズ学資料・フレーム学資料　・2 穴ファイル		
講義室	店舗実習室		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	実務演習　Ⅱ	担当教員	西井　智美　先生
講義の方法 演習	通年　60 時間 前期　月曜4限／後期　火曜 3 限	第一眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	前期で接お伺い～フレーム提案まで行い、後期でレンズ提案～クローズまでの流れを学びます。 年間を通して「単焦点レンズの一組販売ができる」を目標に、全員参加型のロールプレイングやディスカッションを中心に授業を進めていきます。お客様とのコミュニケーションを通してご要望やお困りごとを知ることから、専門家として様々な選択肢の中からお客様の求めるもの、喜んでいただけるものを提案できるスタッフを目指します。		
授業計画	＜前期＞ 1. オリエンテーション　　接客七大用語　笑顔　身だしなみ 2. ロールプレイング　　待機姿勢～ファーストアプローチ 3. ロールプレイング　　お伺い・個人情報管理・カルテ記入 4. ロールプレイング　　お伺い(眼鏡以外の会話) 5. ロールプレイング/フォローアップ　　お出迎え～お伺い 6. ロールプレイング　　仕上がりを考慮した提案 7. ロールプレイング　　フレームの素材・特徴を生かした提案 1　素材と価値 8. ロールプレイング　　フレームの素材・特徴を生かした提案2　カラーと設計 9. ロールプレイング　　トレンド提案 10. トレンド提案/フォローアップ 11～13. ロールプレイング　お伺い～フレーム提案 ＜後期＞ 1. 前期　実務演習 I の復習と前期試験の内容確認(自己分析) 2～5. レンズの提案 6～8. 販売ロールプレイング　一組販売 9. 金銭授受～お見送り 10～13. 販売ロールプレイング　一組販売 14. 実際のお客様役を招いて　一組販売 15. 販売ロールプレイング　一組販売　最終(不得意分野の克服)		
評価方法	出席 10%　身だしなみ(4 項目)10%　学期末試験　80%		
テキスト 準備物	準備物:メモ帳		
講義室	店舗実習室		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	実務演習 Ⅲ	担当教員	桑嶋 浩己 先生
講義の方法 演習	通年 120 時間 前期 木曜 4限／後期 水曜3限 木曜1限	第一眼鏡科3年 第二眼鏡科2年 必修 ・ 選択	
授業内容	メガネをご購入するお客様に楽しく納得して購入して頂けるように、傾聴を基本に様々な切り口でお客様と楽しく会話ができ、アドバイスが必要な時には、専門的な知識をしっかり伝えられるようなスタッフになれるように、学習していきます。 前期は遠近両用眼鏡の 1 組販売を中心に学習し、後期は中近両用、近々両用、リラックスレンズ、度付きサングラス（偏光レンズ・調光レンズ・濃色カラーレンズ・ハイカーブレンズ）、ディスプレイの学習を行い、卒業試験には、お客様のどのようなご要望にも対応出来、信頼して頂けるスタッフを目指します。		
授業計画	＜前期＞ 1～2. 販売ロールプレイング（2 年次の確認及び復習。単焦点レンズの 1 組販売） 3～5. 販売ロールプレイング（累進レンズ販売時に必要なお伺いの実践～測定への誘導） 6～8. 販売ロールプレイング（遠近両用レンズの種類及び特徴の説明） 9～10. 販売ロールプレイング（フレーム特徴説明及び販売方法） 11～13.販売ロールプレイング（遠近両用の 1 組販売） ＜後期＞ 1. 前期試験の確認と今後の注意事項の解説 2～4. 販売ロールプレイング（中近両用レンズの特徴説明と価格表・トライアル確認） 5～6. 販売ロールプレイング（近々両用レンズの特徴説明と価格表・トライアル確認） 7. 販売ロールプレイング（リラックスレンズの特徴説明と価格表・トライアル確認） 8～9. 販売ロールプレイング（度付きサングラスの特徴説明と価格表・トライアル確認） 10～11.販売ロールプレイング（お客様のご希望を考慮した累進レンズの 1 組販売） 12～13.ディスプレイ（ディスプレイの解説及び実務演習室ディスプレイ変更）		
評価方法	定期試験 80％＋取組姿勢・出席率 20％で評価		
講義室			
実務経験	眼鏡店にて 37 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡店実習 Ⅰ	担当教員	柚木 愛 先生
講義の方法 実習	前期 30 時間 木曜 3限	第一眼鏡科2年 必修 ・ 選択	
授業内容	接客業の仕事でなによりも大切なのは、お客様の気持ちに寄り添う姿勢です。 その為には初対面のお客様にも人見知りせず、普段から笑顔で会話ができるよう人前で「話す」「聞く」力が必要です。 グループディスカッションをメインとした授業の中で、毎回全員が考え話し、コミュニケーション能力の向上を目指します。 また、実際の店舗での接客見学や様々なスタイルの眼鏡店を見学し、各科目で学んだ知識・実習で習得した技術の復習を時に実際の商品を使って行うことで、これから目指す眼鏡業界をより身近に感じてもらいます。		
授業計画	1. オリエンテーション 2～3. 眼鏡店を知ろう（眼鏡店の種類・業務） 4. 眼鏡店見学 5～7. 会話表現 8～9. 眼鏡の取り扱いについて（眼鏡クリーニング等） 10～12. 接客スキル		
評価方法	出席率（30％）、授業態度取り組み姿（50％）、課題（20％） を総合的に評価		
テキスト 準備物			
講義室	PARISMIKI WOC OWNER 平井店		
実務経験	眼鏡店にて 8 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡店実習 Ⅱ	担当教員	西井 智美 先生
講義の方法 実習	通年　30 時間 後期　火曜2限	第一眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	接客業の仕事でなによりも大切なのは、お客様の気持ちに寄り添う姿勢です。 緊張状態でも言葉が出てくるよう「言葉の引き出し」をより多くみんなで一緒に考えます。又、実際の眼鏡店でよくある事例をケーススタディ方式で、各自最善の対応を考え、話し合います。後期からは、眼鏡店・サービス業で働く基礎的な力「接客販売スキル」の向上を目指します。実際に眼鏡店で働いている・働いた経験のある方と触れ合うことで、将来眼に関する業界で働くイメージを構築させるきっかけを作り、就職先についても考えてもらいます。		
授業計画	〔前期〕 1.　オリエンテーション 2～3.　眼鏡の取り扱いとクリーニング/復習 5～13. 接客販売スキル/ケーススタディ 14.　インターンシップについて ※ 講義にスキルとつくものは今まで学んだ知識・実習の復習も交えて行います。	〔後期〕 1.　インターンシップを終えて 2～7. 顧客心理/接客販売スキル 8～10. 商品知識 11～12. 総復習/就職先考察	
評価方法	出席率 10%　課題 20%　後期試験 70%を総合的に評価		
テキスト 準備物	配布資料		
講義室	セミナーA・パリミキ平井店・店舗実習室等		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡店実習 Ⅲ	担当教員	後期　西井 智美 先生
講義の方法 実習	後期　120 時間 月曜　3限4限	第一眼鏡科3年 必修　・　選択	
授業内容	実際の店舗で、可能な限り実践に近いかたちで様々なシミュレーションでの対応を皆さんに考えてもらいます。又、企業・就職先の研究を各自で行ってもらいます。接客応対の向上、顧客満足度の追及について自ら考えることで、就職前の不安をできるだけ解消し、就職後楽しく働けるよう備えます。 入社後、楽しく働ける即戦力となるスタッフを目指します。		
授業計画	1～5. 接客スキル/ケーススタディ 6.　発信提案力 7～8. 販売事例研究	9～11. SG 販売スキル 12～13. 就職先商品分析 14.　顧客管理と入社前準備	
評価方法	出席率 20%　課題 10%　後期試験 70%を総合的に評価		
テキスト 準備物	配布資料		
講義室	パリミキ平井店		
実務経験	眼鏡店にて 6 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	事例研究	担当教員	近藤 正己 先生
講義の方法 講義	前期　30 時間 火曜1限	第一眼鏡科3年 必修　・　選択	
授業内容	お客様は何らかの問題やご要望を持って来店されます。その問題を解決し、ご要望に応えることができれば喜ばしいことです。 本授業では、実際のお客様事例を取り上げ、意見を出し合い、解決策を一緒に考えます。授業の中で、 問題解決のために求められる知識・技術を確認するとともに、問題解決に向けた考え方を身に付けることで、不安を自信へと変えましょう。		
授業計画	1. POMRの紹介と解説 2. 事例研究① 3. 事例研究② 4. 事例研究③ 5. 事例研究④ 6. 事例研究⑤ 7. 事例研究⑥	8. 事例研究⑦ 9. 事例研究⑧ 10. 事例研究⑨ 11. 事例研究⑩ 12. 事例研究⑪ 13. 事例研究⑫ 14. 事例研究⑬	
評価方法	前期筆記試験で評価　＋　加点評価　：　出席率加点（0～7 点） 取り組み姿勢加点（0～5 点）		
テキスト	プリント配布		
講義室	基本講義：セミナーA		
実務経験	眼鏡店にて 11 年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	病院実習	担当教員	池田 明博 先生
講義の方法 実習	夏季休暇期間中に実施　30 時間	第一眼鏡科3年　第二眼鏡科2年 必修　・　選択	
授業内容	眼科の医療がどのようなシステムでなされているか、患者様への看護の体制や手術の見学など、貴重な体験を通して今後に生かす。 眼鏡技術者として社会に出た時、医療機関のシステムやスタッフの皆さんの患者様に対する、正確で真摯な姿勢を見学し、今後に生かす。		
授業計画	〈研修に際しての心構え〉 ○ 病院で研修を受けさせていただいています。身だしなみ、言葉遣いには特に気をつけること。 ○ 誰から見ても社会人として認められる姿、服装であること。 これに反する場合は、研修への参加を取りやめる場合があります。 ○ 研修を受けている(朝から晩まで勉強させていただいている)という姿勢で取組むこと。 ○ 患者様や診療の妨げになるなど研修に悪影響を与える場合は研修を中止する場合があります。 ○ WOC の学生であることを自覚して行動すること。 ○ 朝から晩まで研修であると自覚すること。 ○ 病院へは午前 8 時半までに入ること。直ちに服に着替えて、指定された場所へ移動すること。 ○ 体調の悪い場合は、リーダーを通して実習病院へ連絡すること。		
評価方法	出席、レポート提出にて評価		
テキスト	研修ノート		
講義室	眼科病院にて研修		
実務経験	眼鏡店にて 13 年	実務経験のある教員による授業科目	○

<table>
<tr><td>講義科目</td><td>卒 業 研 究</td><td>担当教員</td><td colspan="2">秀野 良児 先生 ＆ チューター
アドバイザー: 近藤 正己 先生</td></tr>
<tr><td rowspan="2">講義の方法
実験</td><td rowspan="2">前期 火曜3･4限／金曜3限 150 時間
後期 火3･4限／金3限</td><td colspan="3">第一眼鏡科3年 第二眼鏡科2年</td></tr>
<tr><td colspan="3">必修 ・ 選択</td></tr>
<tr><td>授業内容</td><td colspan="4">「なぜ？」「どうして？」という疑問について調べてみたい。「こんなものがあれば良いのに」という思いつきを形にしたい。このような各自の発意で進める授業です。
自分の興味ある分野、より理解を深めたい分野に集中し、チューターと一緒にテーマに取り組むことが出来ます。優秀な研究は、「眼鏡学会」で発表したり、「眼鏡学ジャーナル」に掲載したりできます。
テーマは、「学会発表を目指すもの」「新商品やツールの開発」「興味ある分野を追求しまとめる」など
さまざまです。眼鏡学校卒業年度の集大成として得意分野を伸ばすことが可能です。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="4">〈授業計画：卒業研究レポート〉
（前期）
1. 卒業研究の進め方の説明
2. レポートの書き方、まとめ方
3. 前期テーマの選定
4. 文献調査
5. 研究レポートの作成と発表準備
6. 前期発表会

（後期）
1. 後期テーマの選定
2. 文献調査
3. 研究レポートの作成と発表準備
4. 後期発表会
5. レポート仕上げ
優秀論文は、眼鏡学会で発表することもあります。

〈授業計画：卒業研究論文〉
（前期）
1. 卒業研究の進め方の説明
2. 論文の書き方、まとめ方
3. テーマの選定
4. 文献調査、治験、調査、製作
5. 抄録作成と発表準備
6. 前期発表会

（後期）
1. 文献調査、治験、調査、製作の継続
2. 抄録作成と発表準備
3. 後期発表会
4. 卒業論文仕上げ</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">出席：60％ 研究の進め方、発表内容、論文内容：20％ 発表アンケート結果：20％</td></tr>
<tr><td>テキスト
準備物</td><td colspan="4">図書室等で参考文献を調査</td></tr>
<tr><td>講義室</td><td colspan="4">PC 実習室</td></tr>
<tr><td>実務経験</td><td>眼鏡店にて 9 年（秀野）、11 年（近藤）</td><td colspan="2">実務経験のある教員による授業科目</td><td>○</td></tr>
</table>

講義科目	眼鏡学アドバンスコースⅠ・Ⅱ	担当教員	岡本 光平 先生 他 各専門科目担当講師
講義の方法 講義	第一１年 後期 水曜4限 60 時間 第一2年 前期 月曜2限 後期 水曜4限	第一眼鏡科 第二眼鏡科 必修 ・ 選択	
授業内容	眼鏡作製技能士の試験合格を目標として、各専門科目で学んできた知識を復習、試験形式に則った模擬試験に取り組んでいきます。学生の積極的な授業参加、質疑を促し、しっかりと記憶定着につなげていきます。		
授業計画	〔前期〕 1. オリエンテーション 2. 眼鏡光学 3. 屈折調節学 4. 加工学 5. 調整学 6. マネジメント学 7. 商品学(レンズ) 8. 商品学(フレーム) 9. 医学系	〔後期〕 1. オリエンテーション 2. 眼鏡光学 3. 屈折調節学 4. 加工学 5. 調整学 6. マネジメント学 7. 商品学(レンズ) 8. 商品学(フレーム) 9. 医学系	
評価方法	定期試験および評価無し		
テキスト 準備物	授業毎に必要な各種専門書を指示する		
講義室	基本講義:第二講義室		
実務経験	眼鏡店にて４年	実務経験のある教員による授業科目	○

講義科目	眼鏡実技アドバンスコース	担当教員	岡本 光平 先生 他 各専門科目担当講師
講義の方法 実習	第一眼鏡科１年 後期 金曜 Ⅲ・Ⅳ限 隔週 60 時間 第一眼鏡科２年 前期 水曜 Ⅱ限/後期 水曜 ２限	第一眼鏡科1年/2年 第二眼鏡科1年 必修 ・ 選択	
授業内容	眼鏡作製技能士に関する実技科目(加工・フィッティング・屈折測定)の基本的要素をよく理解し、確実に実行できる能力を育成していきます。学習した内容をしっかりと身につけられるように繰り返し練習を行います。		
授業計画	〔前期〕 1. オリエンテーション 2. 視力屈折測定 3. 眼鏡加工作製 4. フィッティング技術	〔後期〕 1. オリエンテーション 2. 視力屈折測定 3. 眼鏡加工作製 4. フィッティング技術	
評価方法	定期試験および評価無し		
テキスト 準備物	オリエンテーションにて授業毎に必要な各種専門書、準備物を伝達します。		
講義室	各実技実習室(測定実習室、加工実習室、調整実習室)		
実務経験	眼鏡店にて４年	実務経験のある教員による授業科目	○